

事業番号	11 08 08	事業改善シート(25年度実施事業分)				<input type="checkbox"/> 予算要求	<input type="checkbox"/> 当初予算案	<input type="checkbox"/> 補正予算案	<input checked="" type="checkbox"/> 点検
事業名	被災建築物応急危険度判定体制の整備事業					担当課	部局	建設部	
							課・室	建築住宅課	
総合5か年計画	プロジェクト					E-mail	<a href="mailto:kenchiku@pref.nagano.lg.jp">kenchiku@pref.nagano.lg.jp</a>		
	施策の総合的展開	4-1 地域防災力の向上 4 災害に強い地域づくり				実施期間	H7 ~		

### 1 事業の概要

目指す姿	○地震によって被災した建築物等の危険性を調査、判定する体制を整備し、余震等による建築物の倒壊や落下物等の危険から県民の安全の確保を図る。		
現状	○震災時において、応急危険度判定に要する判定士を概ね2,000人確保することを目標としており、H7年から養成を行い、現在1226名をの判定士が登録されている。 ○いつでも判定活動を行うことができるように判定士の判定技術レベルの維持・向上と応急危険度判定の実施体制の整備を図る必要がある。		
県が関与する理由	県関与の必要性あり	【左記の説明、根拠法令等】 制度上、判定士の登録は県が行うこととされている。 ・長野県震災建築物応急危険度判定士認定要綱	
	県民との協働による実施：困難		

事業内容	① 成果目標(H25)				
	○応急危険度判定士の増加 ○応急危険度判定士の判定技術レベルの維持・向上 ○応急危険度判定実施体制の整備				
	② 事業内容 (単位:千円)				
	項目	実施方法	H25事業実績		
			H25 (当初)	H25 (決算)	H26 (当初)
1 応急危険度判定士等の養成	直接	・応急危険度判定士養成講習会の開催(10回) ・判定コーディネーターの養成講習会の開催(1回)	273	0	282
2 応急危険度判定士の判定技術レベルの維持・向上	直接	・判定模擬訓練の開催(1回)	5	5	5
3 応急危険度判定実施体制の整備	直接	・判定資機材の購入・備蓄	250	220	0
4 全国被災建築物応急危険度判定協議会	負担金	・全国被災建築物応急危険度判定協議会への参加	45	41	45
		合計	573	266	332

事業コスト	区分(単位:千円)		23年度	24年度	25年度	26年度
	予算額	前年度繰越	0	0	0	0
		当初予算	323	323	573	332
		補正予算	0	0	0	0
		合計(A)	323	323	573	332
	Aの財源	国庫支出金	0	0	0	0
		県債	0	0	0	0
		その他(使・手)	323	323	573	332
		一般財源	0	0	0	0
	決算額(B)		279	320	266	
概算人件費	職員数(人)	0.50	0.50	0.50	0.50	
	概算人件費(C)	4,129	4,129	4,129	4,129	
	概算事業費(B(A)+C)	4,408	4,449	4,395	4,461	

成果目標の達成状況					
項目	H24末(実績)	H25			H26 目標
		目標	成果	達成状況	
判定士数	1,226人	1,400人	1,355人	未達成	1,500人
養成講習会の開催回数	10回	10回	10回	達成	10回
判定模擬訓練の開催回数	1回	1回	1回	達成	1回

目標に対する成果の状況	平成25年11月から平成26年3月にかけて県下10会場で計10回の判定士養成講習会を開催することで、判定士数及び講習会開催回数の目標を達成した。判定士数については、受講した者のうち登録した者がやや伸び悩み目標を達成できなかったが、判定士を順調に要請することができた。 また、平成25年11月に被災建築物応急危険度判定模擬訓練を諏訪市で実施し、判定技術レベルの維持向上を図ることができた。
-------------	--

### 2 今後の事業の方向性

今後、事業をどのようにしていきたいか	<input type="checkbox"/> 事業を実施しない <input type="checkbox"/> 事業を見直して実施 <input checked="" type="checkbox"/> 事業を現行どおり実施
	平成26年度は、応急危険度判定士数1500人の確保に向けて、判定士養成講習会を年10回開催する。また、判定士の技術レベル維持向上のため判定模擬訓練を年1回開催する。 平成27年度以降も、応急危険度判定士の確保と判定士の技術レベル維持向上を目指して、講習会や模擬訓練を開催する。